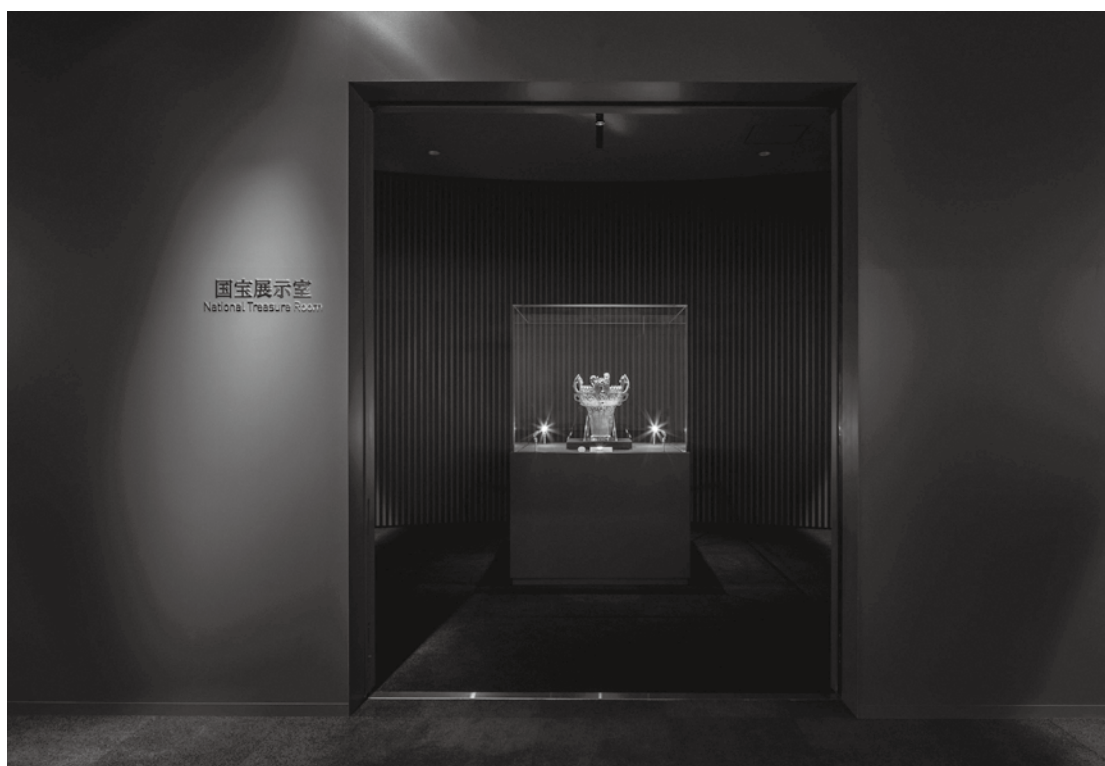


十日町市博物館 年報

— 第 9 号 —



TOPPAKU

令和4年度

刊行にあたって

当館は昭和54年（1979）の開館以来、「妻有地方の自然と文化」をテーマに掲げ、「雪」と「織物」と「信濃川」を柱に、博物館友の会と車の両輪のごとく協力して活動をしてきました。その中で、重要有形民俗文化財「越後縮の紡織用具及び関連資料2,098点」（昭和61年指定）、同「十日町の積雪期用具3,868点」（平成3年指定）、すばらしい造形美を誇る火焰型土器を含む国宝「新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器57点（附871点）」（平成11年指定）を生み出しています。当館は、新館がオープンして3年目を迎え、コロナ禍前の状況に戻るきざしが見えつつあります。本書をご覧いただき、ご指導ご鞭撻いただければ幸いです。

十日町市博物館

目 次

I 館の運営	1
1. 来館者の状況	1
2. 博物館協議会	2
3. 博物館愛称の商標登録	3
4. 新型コロナウイルス感染症対策	3
5. 予 算	4
II 事業の概要	5
1. 教育普及・展示事業	5
2. 資料収集・調査研究・保存対策事業	9
3. 資料の貸出	9
4. その他の事業	10
5. 博物館友の会	12
III 調査・報告	
報告①「縮問屋松村屋・根津五郎右衛門家の御用縮資料」 高橋 由美子	13
報告②「豊田の金精石仏群」 菅 沼 亘	16
利用案内	17

例 言

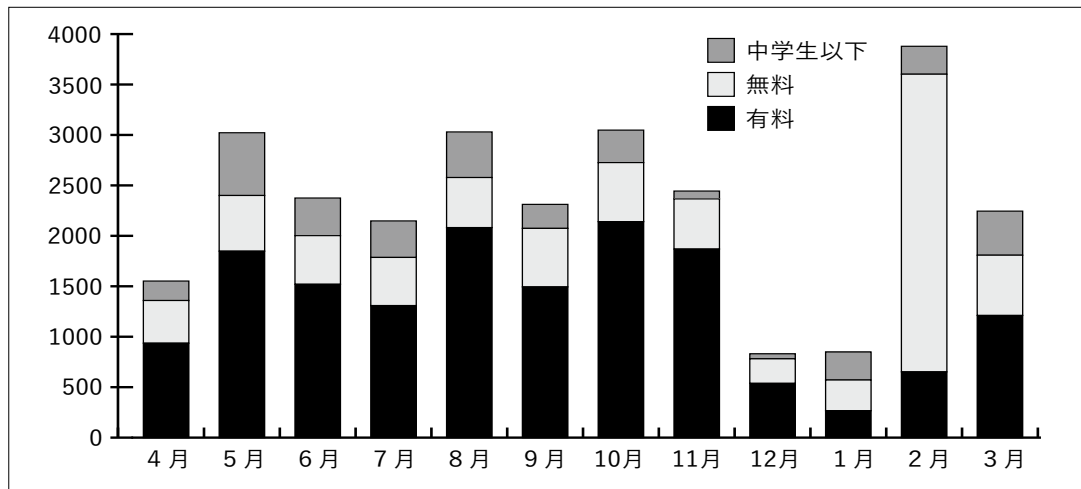
1. 本書は、十日町市博物館の令和4年度の事業報告である。
2. 本書に掲載されている写真の無断掲載（転載）を禁じる。すべての著作権は十日町市博物館と撮影者・提供者に帰属する。
3. 本書の編集は菅沼 亘（学芸員）が行った。原稿の執筆は職員で分担し、文末に氏名を明示した。
4. 本年度の事業を行うにあたり、関係諸機関および多くの皆様から多大なるご協力をいただいた。お礼申し上げる。

I 館の運営

1. 来館者の状況

①月別の推移

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
開館日数	26	27	26	27	26	26	26	26	23	21	20	25	299
一 般	有 料	936	1,848	1,520	1,309	2,082	1,494	2,141	1,869	538	267	652	15,867
	無 料	423	552	482	477	496	580	585	497	243	304	2,950	8,186
計	1,359	2,400	2,002	1,786	2,578	2,074	2,726	2,366	781	571	3,602	1,808	24,053
中学生以下	193	622	373	362	452	238	322	78	50	278	277	437	3,682
合 計	1,552	3,022	2,375	2,148	3,030	2,312	3,048	2,444	831	849	3,879	2,245	27,735



月別来館者一覧

②視察と団体受け入れ状況

	小 学 校
1	川治小学校 3・4年生
2	下条小学校 3年生
3	千手小学校 3・6年生
4	飛渡第一小学校 4年生
5	吉田小学校 3・4・5・6年生
6	橘小学校 3・6年生
7	松代小学校 6年生
8	西小学校 3・4・6年生
9	中条小学校 3・6年生
10	東小学校 3・5年生
11	鑑島小学校 6年生
12	まつのやま学園 3年生
13	十日町小学校 3年生
14	田沢小学校 3年生
15	津南町立上郷小学校 3・6年生
16	小千谷市立東小千谷小学校 6年生
17	南魚沼市立中之島小学校 6年生
18	南魚沼市立上田小学校特別支援学級
19	燕市立島上小学校 6年生

	小 学 校
20	加茂市立下条小学校 6年生
21	上越市立浦川原小学校 6年生(親子行事)
22	上越市立大島小学校 1年生
23	長岡市立越路西小学校 6年生
24	埼玉県久喜市立東鷲宮小学校 5・6年生
25	東京都武蔵野市立第一小学校 5年生
26	東京都江戸川区立第二松江小学校 5年生
27	東京都江戸川区立鹿骨小学校 5年生

	中 学 校
1	下条中学校 1年生
2	中条中学校 1年生
3	十日町中学校 1年生
4	ふれあいの丘支援学校 中学部
5	新潟市立上山中学校 3年生
6	新潟市立白南中学校 3年生
7	福島県大沼郡昭和村立昭和中学校 3年生
8	東京都豊島区学習院中等科 1～3年生
9	東京都中野区大妻中野中学校 2年生

	高校・専門学校・大学
1	十日町看護専門学校
2	十日町総合高校 1年生(取材)
3	川西高等特別支援学校 1年生
4	小千谷西高等学校 3年生
5	塩沢商工高等学校
6	柏崎特別支援学校 高等部 2年生
7	巻総合高等学校 3年生
8	東京都中野区新渡戸文化高等学校 2年生
9	京都芸術大学通信教育部
10	広島なぎさ高校 2年生

	市 内 保 育 園
1	愛宕幼稚園

	子ども関連団体
1	桂町内子供会
2	浦佐認定こども園

小・中学校・高校・大学ほか一覧

	そ の 他 団 体 名
1	共立観光㈱「なぐも友美と行く十日町市を満喫」ツアー
2	JA十日町女性部
3	JA長野女性部瑞穂支部
4	アサココKKスタディツアー（東京都）
5	海外エージェント招聘ツアー
6	柏崎市中央地区コミュニティセンター
7	キャラバントラベル（東京都）
8	きりゆう市民活動推進ネットワーク
9	クラブツーリズム㈱「歴史への旅 長野・新潟の縄文遺跡2日間」
10	クラブツーリズム㈱「歴史への旅 長野・新潟の縄文遺跡3日間」
11	クラブツーリズム㈱関西「八ヶ岳山麓の縄文遺跡」
12	クラブツーリズム㈱日本遺産を活用した旅行商品造成モニターツアー
13	クラブツーリズム㈱インフルエンサー招聘
14	クラブツーリズム㈱モニターツアー
15	クラブツーリズム㈱縄文ツアー
16	ぐるっとミュージアム取材撮影
17	しばたミュージアム設立推進市民会議視察
18	渋川市赤城歴史資料館ボランティアの会
19	ツアーズジャパン（富山）
20	ディスカバーJAPAN取材（県観光協会）
21	新潟交通の旅くれよん「松之山温泉凌雲閣と国宝火焰型土器の世界」
22	新潟市程島寿会
23	ネクスコエンジニアリング
24	ハミングツアー「清津峡美人林とそばの郷Abuzaka」
25	マレーシアアプラ大学他視察団
26	鮎川義塾新潟校
27	茨城県美浦村一行
28	塩沢江戸川荘
29	下田郷いしぶみマイスターガイド養成講座
30	信濃川火焰街道連携協議会構成団体首長一行
31	株式会社WONDER WALL
32	㈱青柳
33	久芳萌々花一行（東京）
34	教育課題研修会（十日町市・津南町小中特別支援学校中堅教員）
35	郷土の文化に親しむ会（新潟市）
36	郡市教育振興会技術・家庭科部 研修会
37	郡市教育振興会社会科部
38	頸城自動車バス研修
39	県観光協会モニターツアー
40	公益社団法人 十日町法人会青年部会
41	三条市老人クラブ連合会ゆとり旅行
42	十日町市南地域自治振興会

	そ の 他 団 体 名
43	十日町地域校長研修会
44	十日町縄文ツアーズモニターツアー
45	新潟県教育庁高等学校教育課
46	新潟県副知事の行政視察
47	新潟交通の旅くれよん「HOKUHOKU-LINEはくほく線芸術祭列車と十日町市博物館」
48	新日本海フェリーで行く！日本三大峡谷「清津峡」（北海道）
49	西遊旅行「信濃川火焰街道と翡翠交易の地糸魚川」
50	大黒沢わくわく
51	岐阜県中津川市議会視察
52	長野県安曇野市議会視察
53	東急グループ役員
54	東京松之山会
55	凸版印刷
56	縄文ツアーズ
57	南海国際旅行アートツアー（大阪府）
58	南魚沼市文化財保護審議会視察
59	日本遺産有識者委員会
60	日本旅行「縄文から学ぶサステナビリティな暮らし体験」
61	文化庁・日本遺産フォローアップ委員会
62	豊栄商工会岡方支部
63	毛里田民児協（群馬県）
64	有限会社志ネットワーク社(青年塾)
65	余生おせっかい
66	「究極の雪国」インフルエンサー招聘
67	あいおいニッセイ同和損保
68	新潟県教育委員会現地研修会
69	青山きもの学院
70	新潟交通くれよんの旅「カールベンクスと古民家カフェと縄文時代と火焰型土器」
71	文化庁コーチング現地調査
72	十日町市議会総務文教常任委員会
73	野村ホールディングス会長
74	クロアチアホームタウンクラブ
75	新潟県立歴史博物館（サイモン・ケーナー、宮尾享）
76	クロアチアホストタウン推進事業 プシナ・プラス・クインテット
77	（一財）日伯経済文化委員会（ANBEC）
78	ベルナティオツアー「日本遺産究極の雪国十日町ストーリー」
79	共立観光㈱「なぐも友美と行く十日町・縄文とスノウリッチツアー」
80	長野県下諏訪町観光振興局
81	インフルエンサー招聘事業
82	十日町市観光協会ツアー
83	明治大学農学部小田切教授
84	8 TRIPS マレーシア

その他の団体一覧

（興野 裕貴子）

2. 博物館協議会

協議会は年に2回開催され、各回の詳細は以下の通りである。委員は10名で、今年度は任期2年目となった。

第1回：令和4年7月8日(金) 13：30～15：30 委員6名出席

- ・令和4年度十日町市博物館事業について
- ・博物館バックヤード見学

第2回：令和5年3月28日(火) 13：30～15：30 委員7名出席

- ・令和4年度十日町市博物館事業の実施状況について
- ・令和5年度十日町市博物館事業計画について

氏 名	職業・所属団体（役職など）	備 考
宇都宮 正 人	十日町市博物館友の会 会長	委員長、社会教育
市 村 正 史	十日町市文化協会連合会 副会長	副委員長、社会教育
星 名 大 輔	十日町青年会議所 専務理事	社会教育
上 村 み ほ	十日町市立西小学校 校長	学校教育
須 藤 高 志	初任者研修拠点校指導教員	学校教育
渡 邊 里 沙	十日町市立水沢小学校 P T A	家庭教育
植 木 紀 子	十日町市立鑑島小学校 P T A	家庭教育
佐 野 沙也加		公募
高 橋 智恵子		公募
滝 沢 梢		公募

博物館協議会委員一覧（任期：令和3年4月1日～令和5年3月31日）

3. 博物館愛称の商標登録

昨年度に新館オープン1周年を記念して募集し、選考・決定した博物館の愛称「TOPPAKU」の商標登録を行った。

- ・商 標：T O P P A K U
- ・特許庁登録：第6620145号
- ・登録日：令和4年9月27日
- ・指定商品または指定役務並びに商品及び役務の区分

第41類 地域の自然・歴史・文化に関する知識の教授及びこれらに関する情報の提供、博物品の展示及びこれらに関する情報の提供、火焰型土器等の考古物の展示、織物に関する歴史的・文化的資料・文化財の展示、雪国に関する歴史的・文化的資料・文化財の展示（一部抜粋）

4. 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下の対応を行った(令和5年3月13日からは対応を緩和)。

①入館等の制限

- ・団体入館者の人数コントロール（事前予約による同時入館人数の制限）
- ・企画展示室同時入室を30人程度に制限

②感染症対策

- ・非接触型体温計による入館時の検温
- ・風邪症状のある方及び37.0℃以上の発熱者入館制限
- ・入館時のマスク着用徹底
- ・館内の3密回避の呼びかけ
- ・入口及びトイレ出入口付近、各展示室内に手指消毒液の配置
- ・ポリエチレン製使い捨て手袋の配置
- ・ゴミ箱の撤去（ゴミの持ち帰り推奨）
- ・巡回消毒の実施
- ・閉館後の体験型展示消毒の実施
- ・音声ガイド端末のフィルムラッピング（イヤホン貸出中止）
- ・受付に飛沫防止シールドを設置
- ・空調システムの外気導入最大化

（笛田 晃）

5. 予 算

令和4年度の予算は以下のとおりである。

(興野 裕貴子)

歳入予算

(単位：千円、千円未満切り上げ)

款 項 目				
節	説 明	当初予算額	補正額	補正後予算額
14款 使用料及び手数料	1 項 使用料 7 目 教育使用料			
5. 博物館入館料	5. 博物館入館料	14,150	0	14,150
14款 使用料及び手数料	1 項 使用料 7 目 教育使用料			
5. 博物館入館料	10. 施設使用者使用料	408	0	408
21款 諸収入	5 項 雑入 2 目 雑入			
7. 教育雑入	1. 私用電話料	1	0	1
21款 諸収入	5 項 雑入 2 目 雑入			
7. 教育雑入	2. 私用コピー使用料	1	0	1
21款 諸収入	5 項 雑入 2 目 雑入			
7. 教育雑入	3. 施設使用者電気料	36	0	36
21款 諸収入	5 項 雑入 2 目 雑入			
7. 教育雑入	53. 物品使用料	360	0	360
21款 諸収入	5 項 雑入 2 目 雑入			
7. 教育雑入	67. 博物館物品販売収入	12,360	0	12,360
21款 諸収入	5 項 雑入 2 目 雑入			
7. 教育雑入	70. 古文書講座資料代	30	0	30
21款 諸収入	5 項 雑入 2 目 雑入			
7. 教育雑入	75. 博物館体験プログラム参加料	0	0	0
21款 諸収入	5 項 雑入 2 目 雑入			
7. 教育雑入	98. その他雑入	1	0	1
計		27,347	0	27,347

歳出予算

(単位：千円、千円未満切り上げ)

節	説 明	当初予算額	補正額	補正後予算額
1. 報酬	会計年度任用職員報酬・博物館協議会委員報酬	6,826	0	6,826
3. 職員手当等	会計年度任用職員手当	812	0	812
7. 報償費	講師謝礼・指導者謝礼	371	0	371
8. 旅費	費用弁償・普通旅費	432	0	432
10. 需要費	消耗品費・燃料費・食糧費・印刷製本費・光熱水費・修繕料	23,938	2,537	26,475
11. 役務費	通信運搬費・手数料・保険料・広告料	4,406	0	4,406
12. 委託料	館維持管理委託・収蔵資料燻蒸業務委託 ほか	17,018	0	17,018
13. 使用料及び賃借料	テレビ受信料・機器・車両リース・収蔵品管理システム利用料	663	0	663
18. 負担金ほか	日本博物館協会ほか負担金	46	0	46
計		54,512	2,537	57,049

事業別歳出予算内訳

(単位：千円、千円未満切り上げ)

事 業 名	当初予算額	補正額	補正後予算額
一般経費	216	0	216
旧博物館施設維持管理経費	1,218	0	1,218
博物館施設維持管理経費（除排雪経費、コロナ対策経費含む）	35,865	2,537	38,402
教育普及・展示事業（特別展示会事業含む）	5,809	0	5,809
資料収集・調査研究・資料保存対策事業	2,474	0	2,474
縄文文化発信事業	330	0	330
とおかまちスノーカントリーミュージアム魅力増進事業（文観計画・補助）	8,600	0	8,600
計	54,512	2,537	57,049

Ⅱ 事業の概要

1. 教育普及・展示事業

①教育普及事業

博物館講座

本講座は市民を対象としたもので毎年6月に行われ、昨年度は「縄文を学ぶ」、本年度は「究極の雪国を学ぶ」がテーマである。各回の演題と講師は以下のとおりであり、全3回で計46人の受講者があった（受講料無料）。

第1回：6月4日(土)「食から見る雪国の暮らし」

大楽 和正 氏（新潟県立歴史博物館 主任研究員）

第2回：6月18日(土)「防寒着としての角巻 一庶民がはじめて
体験した毛織物の世界」

岩野 笙子 氏（新潟県民俗学会 理事）

第3回：7月2日(土)「雪国の建築」

平山 育男 氏（長岡造形大学 教授）



第1回博物館講座

古文書入門講座

本講座は古文書読解の初心者を対象としたもので、市内の史料をテキストにして古文書に親しむと共に、郷土の歴史を学ぶことを目的としている。昨年度に続き、講師は林 悦郎氏（博物館友の会・古文書研究グループ）にお願いした。今年度は「越後国魚沼郡六ヶ村御検地水帳」、「御用留 六箇村庄屋控」、「新潟湊御渡米諸入用帳」などをテキストとしている。6月から11月の土曜日（隔週・午前）に行われ、回数は全12回である。今年度の受講生は計11人、延べ参加人数は109人であった。また、受講生よりテキスト代（1,500円）を徴収している。

子ども博物館

本事業は、小学生を対象とした体験教室である。今年度は、8月20日(土)に①「プラ板キーホルダー作り」（参加費300円）、12月17日(土)には②「ミニチュア土器づくり」（参加費500円）を開催した。①では、オーブントースターで温めると縮むプラ板を使用して、国宝・火焰型土器のイラストや着物の柄、雪の結晶模様などを写し取り、オリジナルのキーホルダーを作った。②では、オーブンで焼くことができる粘土を使用して、小型の土器を作っている。いずれの体験においても、着物や市内出土の縄文土器など館所蔵資料を活用した。各回とも定員15名（事前申込）で、参加者は保護者合わせて計14名であった。

（菅沼 亘）



プラ板キーホルダー作り



ミニチュア土器作り



ミニチュア土器作り

②展示事業

春季企画展「市民からの贈り物」

本展は、博物館友の会との共催で開催された。会期は4月29日(金・祝)から6月5日(日)の38日間、会期中の入館者数は計3,771人である。

当館には毎年、市民から多くの資料が預けられ、その種類は縄文土器・石器、民俗資料、古文書、着物、絵画など多岐におよぶ。本展では、普段は収蔵庫に保管され公開される機会の少ない寄贈品や寄託資料、指定文化財などを展示して、博物館における資料収集活動の一端を紹介した。主な展示資料は、芋川原遺跡^{いもごつばら}火焰型土器(寄贈)、マジョリカお召^{めし}(寄贈)、縮問屋松村屋・御召縮資料^{おめしちぢみ}(寄託)、妻側からの離縁状^{うんごくとうがん}(寄託)、聖徳太子孝養像図(寄贈)、群馬図屏風・雲谷等顔筆(市指定文化財)などである。



春季特別展チラシ

夏季企画展「里山の石仏 一松之山の祈りと信仰」

本展は、博物館友の会との共催で開催された。会期は、7月23日(土)から8月28日(日)の37日間、会期中の入館者数は計3,630人である。

博物館友の会・いしぶみ研究グループは、6年間をかけて市内松之山地域の石仏調査を行っている。本展では、同グループの調査成果をパネル展示し、里山の路傍にたたずむ石仏の魅力を紹介した。同様な形で、平成26年には夏季企画展「松代の石仏一里山の祈りと信仰」を開催している。今回も、同グループとの協働による展示であり、当館の基本理念「市民・来館者と共に考え、活動し、成長する博物館」を体現するものとなった。

展示構成は、①「松之山地域の石仏概要」、②「里山の祈り一石に彫られた姿」、③「里山の信仰一石に刻まれた文字」、④「松之山地域の石仏群」である。①では、27冊に及ぶカード台帳をまとめ、調査結果の概要を解説している。②は地藏や馬頭観音、道祖神など神仏の姿が彫られた像塔、③では二十三夜塔や庚申塔^{こうしん}など信仰に関わる文字碑を写真パネルで展示した。④は、一ヶ所で多くの石仏を見ることができる、代表的な石仏群を紹介している。また、展示図録を刊行し、ミュージアムショップで販売した。



夏季企画展の展示状況



夏季企画展チラシ

なお、当館と森の学校「キョロロ」の連携企画として、キョロロの出張ミニ展示「煌めきのチョウ展」を同時開催している。2館に入館した来館者に、オリジナルシールと生物多様性カードをプレゼントした。

本ノ木・田沢遺跡群国史跡指定3周年記念・秋季特別展「縄文時代の始まりを探る」

本展は、博物館友の会と信濃川火焰街道連携協議会との共催で開催された。会期は、10月1日(土)から11月13日(日)の44日間、会期中の入館者数は4,593人(うち特別展の有料観覧者数2,385人)である。

信濃川上流域の十日町市と津南町は、日本屈指の縄文時代草創期遺跡密集地域である。令和元年(2019)10月16日、信濃川とその支流・清津川の合流点にある、田沢・壬遺跡^{たざわ じん}(十日町市)と本ノ木遺跡^{もとのき}(津南町)が国史跡(「本ノ木・田沢遺跡群」)に指定された。この地域では、縄文時代中期に火焰型土器が登場する約1万年以上前に縄文時代が始まっている。本展では新潟県



秋季特別展チラシ

の内外から重要文化財を含む草創期の出土品を集め、縄文時代の始まりや土器の起源、当時の生活など草創期について紹介した。

展示構成は、①「縄文時代の始まり」、②「土器の利用」、③「田沢・壬、そして本ノ木遺跡」、④「石器の利用」である。①では、旧石器時代と縄文時代の年代区分を中心に、近年における草創期の研究動向を紹介した。②は土器の起源や年代、変遷、利用方法を解説している。③では、田沢・壬・本ノ



秋季特別展の展示状況

木遺跡をめぐる研究史、平成21年から29年に行われた田沢遺跡の範囲確認調査の概要を紹介した。④は、特徴的な石器の使用方法、当時の生業や居住について解説している。

10月15日(土)の午後には、谷口康浩氏(國學院大學文学部教授)を招いて、記念講演会「信濃川流域の縄文時代草創期遺跡群」が開催され、45人が参集した。また、展示図録を刊行し、ミュージアムショップで販売している。

冬季企画展「究極の雪国 食べものがたり」

本展は、博物館友の会との共催で開催された。会期は、令和5年2月18日(土)から3月26日(日)の37日間、会期中の入館者数は2,586人である。

令和2年(2020)に十日町市のストーリー「究極の雪国とおかまち一真説! 豪雪地物語ー」が「日本遺産」に認定された。このストーリーは、「着ものがたり」「食べものがたり」「建ものがたり」「まつりものがたり」「美ものがたり」の五つの物語で構成されている。本展では、当館が所蔵する重要有形民俗文化財「十日町の積雪期用具3,868点」(平成3年指定)の中から食生活用具を展示して、雪国の食文化の知恵「漬ける」「仕込む」「貯える」を紹介した。



冬季企画展チラシ

展示構成は、①「雪国の食生活用具」、②「漬ける、仕込む、^つ搗く」、③「貯える」、④「作る、盛り付ける」である。①では、十日町の積雪期用具の概要とかつての日常食を解説した。②は、冬季の保存食である「コーコ」(大根の沢庵漬け)や「ツケナ」(野沢菜漬け)、味噌を仕込む用具、餅搗き用具を展示している。③では、大根を保存するダイコタテ(藁製施設)の他、雪を貯蔵する雪室についても解説した。④は、ソバや納豆、豆腐作り用具の他に、通年で使用された煮炊き用具、食器類、酒に関する嗜好品も展示している。また、展示解説リーフレット(A3・二つ折り)を無料頒布した。



冬季企画展の展示状況

特設展示「昔の道具」

市民から寄贈された昭和の道具類を集めた。会期は、令和5年1月4日(水)から1月29日(日)である。道具を使用されていた場面ごとに分けて展示し(日常生活、学校・職場、趣味・娯楽)、現在では失われつつある昭和の暮らしを紹介した。また、会場内では石臼の粉挽き体験を行っている。小学3年生の総合学習(昔のくらし)での利用に伴い、計164人(8校)が見学した。

(菅沼 亘)



特設展示「昔の道具」の展示状況

③まちの文化歴史コーナー

十日町市市民交流センター1階の「まちの文化歴史コーナー」（愛称：HAKKAKE）において、博物館収蔵資料の展示を行った。今年度は、日本遺産「究極の雪国とおかまち—真説！豪雪地ものがたり—」を構成するストーリーに関連した資料を展示している。「着ものがたり—編布と織布—」アンギン・越後縮(5/11～7/11)、「建ものがたり—雪国建築の知恵—」野首・馬場上遺跡出土品(7/13～9/12)、「食べものがたり—食料保存の知恵—」笹山・馬場上遺跡出土品(9/14～11/14)、「美ものがたり—縄文と古代の美—」幅上・馬場上遺跡出土品(11/16～1/5)、「まつりものがたり—節季市と雪まつり—」チンコロ・ドウラクジン(1/6～2/27)、「春ものがたり」雛飾り・お札(3/1～4/10)である。

また、「まちなか国宝展示」として「十日町きものまつり」(5/3)にあわせ、火焰型土器(指定番号9)の実物を展示した。同日には、近隣にある十日町市市民活動センターの1階ギャラリーにおいて、十日町のきもの歴史展を開催している。(笠井 洋祐)

④博学連携

市内の小学校3校と協力し、以下の総合学習を実施した。鑑島小学校：縄文土器作り体験授業（7月4日）、博物館展示解説（7月12日）、土器焼き（10月20日）。中条小学校：笹山遺跡および博物館展示解説（9月14日）、学習発表会用に縄文衣装貸出（10月22日）。西小学校：出前授業（5月13日）、博物館見学（5月18日・9月27日）、勾玉作り（5月25日）、学習発表（令和5年3月8日）。

(阿部 敬)

⑤職場体験

十日町中学校2年生3名（7月6・7日）、中条中学校2年生2名（7月27・28日）、十日町高等学校松之山分校2年生1名（8月2～4日）、川西中学校2年生1名（11月4日）の計7名（延べ14人・8日間）を受け入れた。体験内容は、開館・ガラス拭き作業、ミュージアムショップ商品管理、受付窓口業務などを行った。(興野 裕貴子)

⑥縄文体験

令和3年度より、第2・4日曜日（4～12月）の午後に一般の来館者を対象とした体験メニューを行っている。今年度は、勾玉作りとプラ板・火焰型土器キーホルダー作りを実施した。体験料は300円（大人・小人とも）である。計112人が参加している。

⑦その他

TOPPAKUパーク

令和5年2月18日(土)に開催された「第74回十日町雪まつり」に合わせて、博物館周辺がイベント会場「TOPPAKUパーク」となった。館内のロビーを無料開放し、昔の生活体験（縄ない・石臼の粉挽き）、雪国の映像放映、「むこ投げ・スミぬり」VR体験、学芸員による展示解説、日本遺産の紹介を実施し、約2,800人が入館した。

「8K de 学ぼう！火焰型土器&遮光器土偶」in TOPPAKU

8Kカメラで撮影した国宝・火焰型土器(No.1)と王冠型土器(No.15)の超高精細映像データを活用して、NHKがデジタルコンテンツを制作した。このコンテンツを体験できるイベント（主催：NHK新潟放送局）が、令和5年3月18日(土)から21日(祝・火)に開催されている。国宝をモニター上で回転・拡大して鑑賞する体験や、子供対象のタブレットを利用したワークショップ(8回)が行われ、計162人が参加した。また、期間中に入館者は677人であった。(菅沼 亘)

2. 資料収集・調査研究・保存対策事業

①資料の収集

博物館では、市民等から十日町市の歴史文化を伝える古文書等歴史資料、写真、民具等の資料の寄贈・寄託を受け付けている。今年度は40点（資料番号15349～15388、令和5年3月1日現在）となった。主な資料としては、考古資料（土器・石器）、古文書（縮問屋松村屋御召縮資料、正覚院資料、高島村庄屋家文書）、民具（酒徳利コレクション、百万遍の数珠・鉦等一式、越後縮生産用具など）、着物資料（マジョリカお召の反物、昭和20～30年代の織物見本切綴）、絵画（明屋有照賛仏画掛軸）、その他に、十日町雪まつりポスター、昭和46年頃の高倉小学校の映像資料（DVD）などがあげられる。また、高島村庄屋家文書は、既に当館が所蔵している高島区有文書（寄託）とあわせて調査・研究を進めていくことが望まれる。

近年、転居や転出に伴う家屋や土蔵などの取り壊しが増加傾向にあり、資料の保管場所の消失・減失が懸念されている。今後とも、適切な保管場所を確保して収蔵し、活用につなげられるように整理作業を進めていく必要がある。（高橋 由美子）

②調査研究

十日町市博物館研究紀要第2号をオンラインジャーナルとして公開した。内容は以下の通りである。
【論文等】新潟県における「犬の子朔日」の変異と拡散（阿部敬）、「ミュージアム・マネジメントの実践（2）―新十日町市博物館の取り組み―」（石原正敏）、縄文文化を学んで給食メニューを作る―小学校における総合学習の博学連携―。（阿部 敬）

③資料の保存

旧館の収蔵庫に収納されている、重要有形民俗文化財「十日町の積雪期用具」を新館の民俗収蔵庫に移動するため、10月25～27日にトラックを使用した包み込みによる燻蒸作業を行った。合わせて、新規受け入れ資料の燻蒸も行っている。作業は専門業者に委託し、薬剤はエキヒュームSを使用した。（菅沼 亘）



燻蒸作業

3. 資料の貸出

①実物資料の貸出

貸出状況は以下のとおりである。長野県立歴史館と相互資料貸借を実施した。（笠井 洋祐）

貸 出 先	資 料 名 (点数)	目 的 (展覧会名・会期など)
津南町なじよもん	内後遺跡土器13点	秋季企画展「苗場山麓1,800万年の軌跡」(8/22～11/30)
	赤羽根遺跡土器1式	調査研究 (6/28～R5.3.31)
長岡市馬高縄文館	樽沢開田遺跡土器4点、土偶14点、土製耳飾26点、計44点	特別展「藤橋遺跡と縄文晩期の土器文化」(9/23～11/6)
新潟県立歴史博物館	野首遺跡火焰型土器1点、野首遺跡王冠型土器1点、干溝遺跡微隆起線文土器1点、計3点	夏季テーマ展「重要文化財・村尻遺跡出土品」(7/16～8/28)
	南雲遺跡大珠3点、寿久保遺跡大珠1点、長者原遺跡勾玉1点、計5点	ヒスイ「県石」指定記念ミニ展示(11/3～R5.2/5)
長野県立歴史館	森上遺跡火焰型土器1点	資料相互貸借 (11/22～R5.11/19)

実物資料の貸出一覧

②写真資料の貸出

写真資料の貸出件数は計145件（2月28日現在）、主な貸出状況は以下のとおりである。国宝・笹山遺跡出土火焰型土器をはじめとする考古資料が約7割を占めている。使用目的では教材・テストなど教育関連が最も多い。近年は、縄文が注目されTVや雑誌での使用も増加している。（春川 奈嘉子）

貸 出 先	出 版 物	貸 出 資 料	備 考
株式会社ディスカバー・ジャパン	「Discover Japan 2022年 9月号」	国宝・笹山遺跡出土 深鉢形土器	雑 誌
株式会社小学館	「小学館版学習まんが日本の歴史」		書 籍
株式会社フィグインク	「いま絶対に見ておくべき日本の国宝」		書 籍
株式会社扶桑社	「Numero TOKYO (ヌメロトキョウ) 12月号」		雑 誌
株式会社日経映像	テレビ東京『新美の巨人たち〈岡本太郎回〉』		TV番組
株式会社リタピクチャル	番組「アートなんか知らない！」	縄文土器5点	放 送
柏書房株式会社	「土偶大事典」	カウカ平遺跡、笹山遺跡、大井久保遺跡、樽沢開田遺跡、野首遺跡の土偶	刊行物
株式会社 かみゆ	JTBのMOOK「るるぶ縄文」	国宝・笹山遺跡出土深鉢形土器、博物館外観、展示物・館内の様子 等	書 籍
株式会社ワイズカンパニー	「KAZE NETWORK NEWS vol.283」		雑 誌

写真資料の貸出一覧（主要なもの）

4. その他の事業

①スノーカントリーミュージアム事業

本事業は、文化庁の文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業に伴うものである。令和2年に認定された十日町市の地域計画「とおかまち スノーカントリーミュージアム―雪の中のARTS & CULTURE―」の中で、博物館は文化観光拠点施設のひとつに位置付けられている。以下の事業を実施した。

博物館資料デジタルアーカイブ化事業

重要有形民俗文化財「越後縮の紡織用具及び関連資料」（昭和61年指定）と「十日町の積雪期用具」（平成3年指定）のデジタルアーカイブ作成に向けて、指定品の写真撮影データ（1,350カット）を取得した。入札により業者を選定し、新潟県内の業者に業務を委託している。令和6年度にアーカイブを作成、令和7年度より公開予定である。

博物館所蔵文化遺産体験事業

本事業は、博物館が所蔵する国宝と重要有形民俗文化財への理解をより深められるよう、観光客にこれらを体験する機会を提供するものである。市内の事業者へ業務を委託して、雪国の生活体験プログラム開発、積雪期用具を活用した雪国体験、積雪期用具製作を実施した。小正月行事であるホンヤラドウや鳥追い、ハコゾリなどの雪遊びを体感するプログラムを市内2ヶ所（十日町・中里地域）で開発している。また、令和5年2月18日（土）の十日町雪まつりに合わせ、博物館周辺において小学生がコドモゾリ、ヤマゾリ、コシキなどの積雪期用具を体験するイベントを開催した。なお、体験プログラムを実施する事業者へ貸し出す積雪期用具も製作している。



ヤマゾリ引き体験

博物館所蔵文化財に関する人材育成事業

本事業は博物館が所蔵する文化財に関連し、地域に伝承されてきた技術を継承する人材を育成するものである。昨年度に引き続き、博物館友の会に業務を委託して、雪国の暮らし体験教室を開催した。体験メニューは、アンギン編み（11月27日）、シメナワ作り・初級（12月11日）、同中級（12月18日）、チンコロ作り（令和5年1月22日）、郷土料理作り（令和5年2月5日）、募集定員は各回10人（参加費無料）である。参加人数は計56人であった。



アンギン編み

文化財を活用した商品開発事業

本事業は、博物館が所蔵する文化財を活用した商品開発に取り組むものである。昨年度に引き続き、博物館友の会に業務を委託した。外部（6人）と内部メンバー（2人）で構成されるワークショップ（メンバーは昨年度と同じ）を計4回開催している。外部メンバーには、博物館のミュージアムショップに商品を納品している業者を含む。昨年度に試作した菓子を継続して検討すると共に、明石ちぢみの着物柄をモチーフにしたトートバックと風呂敷の試作品を新たに製作した。また、12月16日（金）にミュージアムグッズ愛好家の大澤夏美氏を招いて、講演会「どこでも心ときめくミュージアムグッズの世界」を開催している。



大澤夏美氏の講演

拠点施設連携企画展等開催事業

本事業は、文化観光拠点施設である博物館と森の学校キョロロ、十日町情報館が相互に連携して企画展等を行い、観光客の周遊を向上させ、入館者の増加を図るものである。夏季企画展と冬季企画展において、それぞれキョロロの出張ミニ展示「煌めきのチョウ展」「美人林ものがたり」を実施した。また、令和5年3月11日（土）から23日（木）に山内写真館資料写真展「昭和の十日町～心に残ったわたしの1枚～」を開催した。会場は十日町情報館ギャラリー、会期中の入場者は1,400人である。これに合わせて、キョロロがミニ展示「ムシが支えた越後妻有の伝統美」を行い、情報館は織物や雪国の暮らしに関連する図書の特設コーナーを設置している。（菅沼 亘）



山内写真館写真資料展

②雪文化三館提携事業

平成4年に三館提携を結んでから30周年を迎えたことを記念し、特別展の開催と三館共同ミュージアムグッズとしてオリジナルバッグを製作した。特別展は「モノと芸術とヒトが織りなす雪文化」をテーマに、9月6日（火）～25日（日）十日町市博物館エントランスホールにて、三館の資料20点を展示した（入場無料）。各館のテーマと展示数は次のとおりである。当館は、「雪国の生活」（山内写真館写真5点）、南魚沼市トミオカホワイト美術館は、「雪に魅了された画家 富岡惣一郎」（油彩画等7点）、鈴木牧之記念館は「北越雪譜の



提携30周年記念特別展

夜明け」(初版本等8点)。特別展期間18日間の当館入館者は1,778人、三館全体では2,665人であった。

また、オリジナルバッグは、北越雪譜の雪花図をモチーフに150枚製作した。うち60枚は三館スタンプラリー達成記念品とし、90枚は各館のショップで販売した。

このほか、三館相互の入館者数増を図り、三館提携事業を広く周知するため、スタンプラリー及び2割引きの優待付きパンフレットを観光施設や高速道路SAへ配置をした。スタンプラリーについては、三館すべての押印が終了した来館者に記念品を贈呈しており、令和4年度の当館でのスタンプラリー達成者は49名(うちオリジナルバッグ贈呈者27名)であった。(興野 裕貴子)

5. 博物館友の会

博物館友の会は昭和54年(1979)に発足し、会員は令和5年2月末現在で約570名である。植物・古文書・いしぶみ・歴史・民俗・方言・考古・きものの8つの研究グループが、研究活動を行っている。今年度の主な活動は以下のとおりである。

令和4年

4月16日(土) 令和3年度・総会

5月21日(土) 「火焰」143号発行

巻頭言(きもの研究グループ・木村 喜郎)、令和4年度・事業計画、令和4年度博物館事業のお知らせ、令和3年度・研究グループ発表会ほか

6月8日(水) 第92回文化財巡り「一本木公園のバラと小布施散策の旅」

参加費8,000円、参加者27名

7月9日(土) 庚申供養祭(参加者:23人)、

7月22日(金) 研究グループ懇談会

9月17日(土) 「火焰」144号発行

巻頭言(いしぶみ研究グループ・小堺 哲也)、4～8月の活動報告、第92回文化財巡りに参加して、秋季特別展の案内

10月19日(水) 第93回文化財巡り「錦秋の秋山郷ジオパークの旅」

参加費7,500円、参加者24名

令和5年

2月11日(土) 「火焰」145号発行

巻頭言(理事・大嶋 厚子)、10～12月の活動報告、第93回文化財巡りに参加して、博物館の事業案内

2月18日(土) 第74回 十日町雪まつり「TOPPAKUパーク」参加

甘酒の無料提供、記念撮影コーナーの設置

3月11日(土) 研究グループ発表会(会場:博物館 講堂)

植 物「松之山黒倉の植物」

古 文 書「天和検地 一近世の基本土地台帳一」

いしぶみ「令和4年度・グループの活動」

民 俗「妻有の郷土食

一令和に伝わるふるさとの味一」

方 言「妻有の女性と方言」

考 古「縄文時代の始まりを探る」

き も の「日常生活の着物」



研究グループ発表会

(菅沼 亘)

Ⅲ 調査・報告

報告①

縮問屋松村屋・根津五郎右衛門家の御用縮資料 ～徳川将軍家が愛用した十日町の越後縮～

高橋 由美子

1. はじめに

平成26年（2014）、十日町市内の元縮問屋加賀屋・蕪木家の倉庫から、屏風を包む2疋四方の大判の包紙2点が見つかった。この包紙は元々加賀屋の姻戚である縮問屋松村屋・根津五郎右衛門家が、同家の不用となった帳簿等を貼り継いで作ったものである。その反古の中に、「和宮様」や「天璋院様」といった歴史上著名な人物の名が発見された。同資料の保存修復を終えた令和2年（2021）に反古文書の内容を解説した結果、松村屋根津家が幕末の将軍家や大奥用の最高品質の越後縮である「御召縮」を受注し納品していたことが判明した。これを受けて令和3年（2021）年3月に、国立民族学博物館（みんぱく）の特別展「復興を支える地域文化—3.11から10年」において、本資料は専用の大型アクリルケースに設置・公開され注目を集めた。さらに、令和4年4月から6月にかけて開催された十日町市博物館春季企画展「市民からの贈り物」においても展示され、全容を公開するに至った。ここでは縮問屋松村屋の御召縮資料の内容について調査概要を報告する。

2. 越後縮と縮問屋・松村屋根津家

越後縮とは、麻の一種であるカラムシ（青苧）という植物繊維を原料として魚沼地方で織られた越後布に改良を加え、生地にしぢみ（シボ）を出したり、縞（紺）や格子模様を織り出したりすることにより誕生した盛夏用の織物である。やがて、高級夏着尺として薩摩上布に並ぶ名声を博し、最盛期の天明年間（1787-1789）には20万反もの縮が産出された。三都をはじめ各地の呉服商人が大勢仕入れに来るようになると、高田藩は十日町・小千谷・堀之内の3か所に縮市の開設を認め、流通機構が整備されていった。十日町の縮市を管理し大きな権限を有したのが呉服問屋の買宿となる縮問屋であり、松村屋根津家は加賀屋蕪木家とともに最大手の縮問屋として栄えた。

松村屋の店舗は現在の十日町市本町三丁目あたりにあって、酒造業や為替業を営み財を成した。天保10年（1839）に縮問屋越後屋・青山家が没落すると、同家に代わって三井越後屋の買宿を引き受けた。明治に入ると、根津家は絹織物産業の振興や十日町織物同業組合の創設など産業界を牽引した。しかし、明治33年（1900）の十日町大火で灰燼に帰した際、同家は町の復興に私財を投じて家産が疲弊し、東京で再起をはかるため十日町を去るに至った。

3. 反古文書の内容

この包紙の表側に大書された「慶応元年新調 簾障子二本 但拾本五色之内 根津氏」という墨書から、本資料は慶応元年（1865）までに製作されたことがわかる。この「根津氏」とは前述の松村屋根津家であるが、十日町大火後、同家と姻戚関係にある加賀屋蕪木家に譲り渡されたといわれる。写真1の反古紙に書かれた内容を解説したところ、松村屋を買宿とする江戸の呉服問屋・三井越後屋宛の「覚」（断簡）や、和宮（第14代将軍家茂正室）、天璋院（第13代将軍家定正室）、本寿院（第13代将軍家定生母）用の御召縮の色柄や寸法、代金の内訳明細を記した「覚」（控）などが確認できた【写真2、3】。将軍家の人々の反物の寸法まで細かに記した史料は徳川記念財団や三井文庫にも残っておらず、大変貴重な資料といえよう。

4. 御召縮雛形の宛名

資料Aの柿渋が刷かれた表側の裏面には、御本丸をはじめ和宮および天璋院などの宛名のある御召縮雛形の包紙30枚が貼り継がれている。その内訳は、「御本丸様」(19点)、「天璋院様」(2点)、「本寿院様」(2点)、「新御殿様」(1点)、「実成院様」(1点)、「一ノ御殿様」(1点)、「和宮様」(1点)、「御台様」(1点)、「七宝之間様」(1点)、「誠順院様」(1点)である。このうち「御本丸様」は、江戸城本丸の主である第14代将軍家茂と推測される。家茂の将軍在任期間は安政5年(1859)から慶応2年(1866)である。和宮(和宮親子内親王)は孝明天皇の異母妹であるが、公武合体政策により、文久元年(1861)に江戸に下り、翌年2月に将軍家茂との婚儀が行われた。この時2人は数え年で17歳であったが仲睦まじかったという。しかし、慶応2年に家茂が病没し、結婚生活は僅か5年で幕を閉じた。天璋院は、第12代将軍家定の御台所(正室)で、本寿院は将軍家定の生母である。実成院は家茂の生母で、誠順院は一橋家五代斉位の正室である。また、新御殿、一ノ御殿、七宝之間は大奥の部屋の名称であり、そこに居住する主を指している。この当時、新御殿は天璋院、一ノ御殿は和宮、七宝之間は実成院の居所であった。なお、本資料の包み紙には切地の実物は残っていないが、切地が貼付されていたと思われる箇所には、「御召縮根津」という朱の割印や、発注または納品時期を示す干支の印判や墨書などが確認できる。これにより、和宮の降嫁時期や、本資料に大書された「慶応元年丑」という墨書から、これらの御召縮雛形は、和宮降嫁前年の文久元(1861)年から家茂が逝去した前年の慶応元(1865)年までの5年間に用いられたと推測される。

5. 東京国立博物館所蔵「旧幕府御召越後縮見本帖」と御召縮の色柄

『北越機業史』によれば、越後縮は元禄・宝永(1688~1710)の頃から江戸城本丸御用縮(御召縮)となったという。明治18年(1885)に根津五郎右衛門自身がまとめた「旧幕府御召越後縮見本帖」(東京国立博物館所蔵)には、御召縮とされる縞や格子柄の切地が貼付されている。この見本帖の中で、根津氏は御用商人を介して御召縮を納めていたと記しているが、これまでそうした事実を直接的に示す資料は確認されていなかった。しかし、この見本帖の切地に押された「御召縮根津」という割印と、本資料の雛形の包紙に残る割印が一致していることが判明した。以上のことから、本資料は松村屋根津家が御召縮を納品していたことを裏付け、将軍家・大奥→江戸呉服問屋・御用商人→縮問屋松村屋(買宿)→世話人・機前(織り子)→縮問屋松村屋→江戸呉服問屋・御用商人→徳川将軍家・大奥という御召縮の流通実態を示しているといえよう。「旧幕府御召越後縮見本帖」の切地の色柄については、『十日町市史 通史編6』もしくは東京国立博物館のデータベースを参照されたい。

6. 御召縮の産地と機前

前述のとおり、松村屋根津家は御召縮を将軍家に納入していたことが判明したが、それはまた、当地に御召縮の製織技術を持つ最高水準の織り手が存在したことも示している。本資料にはそうした織り手に関する記載が1か所確認される。それは、「御本丸別段御好 御召縮雛形 ○丑三月中旬出来」と書かれた包み紙の端の「書之受 細尾 助十郎」という墨書である。つまり、この包み紙に貼られた見本裂は「御本丸様が格別にお好み」の色柄であり、「細尾(現十日町市水沢地区細尾)の助十郎家が注文を請けた」ということがわかる。この御召縮を細尾の助十郎家の女性が織るのか、他家の織り子に依頼するかは不明だが、助十郎の周辺には御召縮を織り出す技量のある織り子が存在していた。当時の越後縮はこの地の農家において、いわゆる家内制手工業で生産された。最高品質の青苧を購入して細く裂き、苧績み、撚りかけをして均一な糸を作る。さらに織り出す模様によって予め糸を染め分け、イザリバタという地機にかけて、女衆が熟練の技で全身を使って織り上げた。特に高貴な身分の方に納める場合、精進潔斎し身を清めてから機に向かったという。

以上のことから、本資料は越後縮研究や織物史研究にとって極めて重要な歴史資料であると言える。そして、当地の縮問屋をはじめ仕上げや輸送にかかわった人々、御召縮を心血注いで織り上げた織り子たちの実態を明らかにするため、さらに調査・研究を進めていく必要がある。最後に、本資料の解説と翻刻にご協力いただいた十日町市古文書整理ボランティア各位、元三井文庫研究員賀川隆行氏に心より御礼申し上げる。

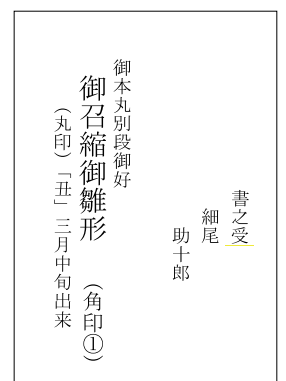
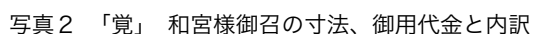
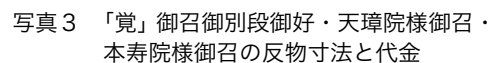
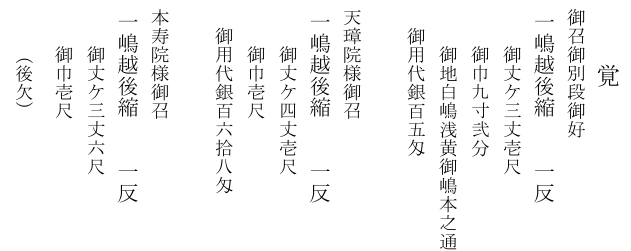
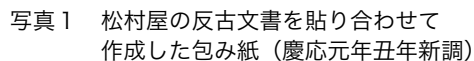
十日町市古文書整理ボランティア 2021『屏風包紙の保存処理および反古文書翻刻報告書 縮間屋松村屋・根津家御召縮資料』

十日町情報館 2009『十日町市郷土資料双書15 縮間屋加賀屋の世界』

十日町市 1997『十日町市史 通史編6』

十日町市博物館 1991『妻有の人物伝Ⅱ 一先人の生き方に学ぶー』

安藤鐔・内田慶三著 1903『北越機業史』



– 15 –

豊田の金精石仏群

菅 沼 亘

ここで紹介する石仏群は、十日町市豊田地内（松之山地域浦田地区）、豊田集落南西側の尾根上に所在する。『松之山町史』（松之山町1991年発行）によると、以前は石仏群に隣接して薬師堂が建てられ、その後、廃堂となった。近年、十日町市博物館友の会いしぶみ研究グループによって、松之山地域の悉皆調査が行われた際には、薬師堂の建物は既に存在せず、石仏群を管理する人もいないことが確認されている。



写真1 金精石仏群の全景

石仏群は金精観音像3基、男根像4基、地藏菩薩像3基、石祠1基の計11基で構成され、これらは2列に並ぶ（写真1）。令和4年6月に現地を踏査した際には、石祠は転倒し、薬師堂の朽ちた建材が残されていた。金精観音像は3基とも光背型で、両手で男根を抱える像形である（写真2-①～③）。法量は、高さ43～45cm、幅25cm、奥行き16～18cmを測る。男根像は石棒状を呈し、観音像が彫られるもの1基（写真2-④）、線刻があるもの2基（写真2-⑤・⑥）、線刻がないもの1基（写真2-⑦）が見られる。法量は高さ26～34cm、径12～18cmである。地藏菩薩像はいずれも光背型で、合掌立像が彫られ、内1基は両手で箱のような持物をもつ（写真2-⑧～⑩）。石祠は流造型である。

これらの石仏には銘文が確認できず、建立年や造立者など詳細は不明である。新潟県内を含め、男根状の石造物を祀る例は知られているが、男根を抱える観音像は稀有である。性器信仰の現れとして、子孫繁栄や子授け、夫婦和合のために造立されたと推定される。類例などご教示いただければ幸いである。なお、上記の記述にあたり、いしぶみ研究グループの調査成果を活用させていただいた。



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩

写真2 豊田の金精石仏群

〈利用案内〉

- 開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）
- 入館料 一般500円（団体20人以上400円）
中学生以下無料
＊特別展は別途料金が必要
- 休館日 毎週月曜日（国民の祝日の場合は翌平日）
年末年始（12月28日～1月3日）
- 所在地 〒948-0072
新潟県十日町市西本町1-448-9
TEL: 025-757-5531 FAX: 025-757-6998
e-mail: museum.10@city.tokamachi.lg.jp
<https://www.tokamachi-museum.jp/>
- 交通 ほくほく線・JR飯山線・十日町駅から徒歩10分
関越自動車道・六日町ICから車30分
関越自動車道・越後川口ICから車30分
北陸自動車道・上越ICから車80分
上信越自動車道・豊田飯山ICから車80分
- 駐車場 第1：普通車16台・障がい者用2台、第2：普通車26台・大型バス3台
- サービス 音声ガイド貸出（日本語・英語・中国語・タイ語・フランス語・イタリア語・ポルトガル語：有料）、ミュージアムショップ、自動販売機
授乳室、多目的トイレ、ベビーカー・車椅子貸出（無料）、コインロッカー（無料）
- その他 館内撮影可能（企画展示室除く、三脚・フラッシュ使用禁止）
館敷地内全面禁煙、展示室内飲食禁止（アメ・ガム含む）



〈令和4年度 博物館職員〉

館長	石原正敏（学芸員）	会計年度任用職員	田村 薫（調査研究員）
副館長	菅沼 亘（学芸員）	〃	春川 奈嘉子
副参事	笛田 晃（業務係長）	〃	山田 まり
〃	相崎 文幸	〃	池田 好恵
主査	高橋 由美子（学芸員）	〃	村山 亜樹
〃	笠井 洋祐（学芸員）		
〃	阿部 敬（学芸員）		
〃	興野 裕貴子		
主任	本柳 美紀（学芸員）		
主事	田村 典子		

十日町市博物館 年報 第9号

編集・発行：十日町市博物館

〒948-0072 新潟県十日町市西本町1-448-9 TEL:025-757-5531 / FAX:025-757-6998
URL: <https://www.tokamachi-museum.jp/> / e-mail: museum.10@city.tokamachi.lg.jp
発行日：令和5年(2022)3月31日 印刷：株式会社 滝沢印刷